

## 情勢報告

## 室戸市特産野菜等コラボレーション協議会がプレ室戸フェアを開催



プレフェアの案内、特産物販売の様子

室戸市特産野菜等コラボレーション協議会は京都市で10店舗を展開するスーパーマーケットの(株)なかむら「生鮮館きぬがさ店」(同市北区)で、23年2月に行う本フェアに先立ち11月27日にプレフェアを開催した。

店頭で同協議会3名と振興センター含む県職員3名が終日、当フェアのPRや市の観光施設等のパンフレットの配付、農産物や深層水関連商品を販売(約9万円)した。昨年度2月に同店舗で開催しており、来店客から「また来てくれたね」「芋は美味しかったよ」などの声をいただき、継続した取り組みは有意義だったと実感した。また、店側からも顧客満足度の高さから次回の本フェアは複数店舗での開催を依頼された。

振興センターはプレフェアでの提言や反省を次回の本フェアに生かすため、協議会と反省会をもち、改善点をピックアップし、議論を仕向けた。次回の本フェアの成功に向け、昨年度2月の売上実績30万円を上回るよう協議会一丸となって室戸市の野菜等を売り込んでいく。

## 北川小学校出前授業



出前授業風景

11月29日、北川小学校で3、5年生(30名)を対象に、村の産業を知るという目的で出前授業を行った。振興センターから基本的なユズ栽培の説明を行い、JA 柚子部会和田支部長から「村のユズ栽培の歴史について」と題し、北川村にユズが広がった時代背景を3期に分けて詳しく話してもらった。半数の児童は、ユズの収穫体験をしていたり、おじいちゃんがユズを栽培していたり、ユズについてはかなりのことまでは知っていたが、北川村で搾ったユズ果汁を1升瓶に入れて並べると、安芸市まで届くという話を聞くと大変驚いていた。

最後には、ジュニア博士のカードをもらい、ユズのことをまた詳しくなると喜んでいました。

ナスの出前授業を開催！！(室戸市立<sup>みたか</sup>三高小学校 篇)

12月3日、JA 土佐あき吉良川支所羽根事業所および天敵を活用したビニルハウスにおいて、室戸市立三高小学校の5、6年生5名を対象に、JAと振興センターが連携し、出前授業を実施した。

まず、振興センターが、「ナスの作り方」、「環境保全型農業の取り組み」についてDVDなどを使って教室で授業をした後、生産者が手づくりしたナスを使ったパウンドケーキとプリンを試食した。

次に、ビニルハウスへ移動し、JA 営農指導員や生産者から収穫の仕方や天敵の見つけ方を教わりながら、「天敵探し」や「収穫体験」を行った。



出前授業の様子

生徒からは、「ナスは好き」、「ケーキおいしい」、「天敵見つけた〜!」、「初めての収穫体験で楽しかった」などといった声が聞かれ、授業を楽しんだようであった。

今回は、県の「高知の特産物ジュニア博士育成事業」を活用した取り組みであったが、これを契機に、子どもたちから要望があれば JA や生産者と連携してナス生産の広報等にも取り組んでいきたい。

### 東洋町野根地区でのブロッコリーの推進



現地確認の様子

12月4日、JA等関係機関で構成するブロッコリー推進プロジェクトチームが、水田状況調査を実施した。当地区は基盤整備されているが、ブロッコリー栽培に不向きな湿田が多いため、栽培可能な圃場を特定する必要があった。

今回の調査では、降雨5日後の排水状況を確認した。22年度中に、さらに条件を絞って調査を行い、栽培可能エリアのマップを作成していく。

また、16日には、出荷先である高知青果市場の関係者を招き、目慣らし会を開催した。振興センターとJAからは、当地区での生育状況や今後の収穫の見通しなどを報告し、市場からは、他産地の入荷状況や出荷時の注意点等が説明された。



目慣らし会の様子

今年は、生産者減による面積の減少や定植時の高温等の影響があったものの、生育は良好で、12月上旬から出荷している。

今後も当地区でのブロッコリーの産地化を目指し、同プロジェクトチーム活動を活発にしていきたい。